

授業科目名	【G】 法学政治学演習 I・II		区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2	
			選択必修					
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	さまざまな政治問題や社会問題を政治学・国際関係論の観点から考察する				担当者	福島 都茂子		
授業概要	【概要】	現在起こっている様々な政治問題や社会問題、国際問題などについて、政治学や国際関係論の観点から考察する。その際、グループワークやグループ・ディスカッションなどを通じて、世の中には様々な考え方や価値観があることを理解した上で、そうした問題をどう解決していくのがよいと思うかなどについて多方面から検討する。また、履修者は各自関心のあるテーマを選び、準備をして発表し、レポートを作成する。						
	【到達目標】	現在の政治問題や社会問題、国際問題に関する幅広い知識を身につける。新聞記事などの資料や文献を正確に読みこなせる読解力を身につけ、それらをもとに自分の意見を他人に分かりやすく伝える発信力や文章力を身につける。学問的なテーマについて建設的な議論ができる力を身につける。						
履修条件	特になし							
アクティブラーニングの方法	【○】	事前学習型	【○】	反転授業	【○】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	「政治学入門」を履修していることが望ましい。							
教科書	特になし。必要に応じて資料を配布する。							
参考書	必要に応じて紹介する。							
評価方法	授業態度 (50%)、課題 (50%) で評価する。							
フィードバック方法	原則として授業内で行う。質問や要望等はメールまたはClassroomのコメントで随時受け付けます。							
評価基準	授業に積極的に参加 (発言等含む) し、課題を達成するとともに、学習した内容をよく理解し身に付けた者はその程度に応じて「S」または「A」、不足がある者はその程度により「B」または「C」とし、参加度または達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、欠席の多い場合や課題未達成などの場合は「F」とします。							

授業 科目名	【G】 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
		選択必修				
授業内容	<p>政治問題や社会問題、国際問題などに関する資料や文献を読み、それらを正確に理解したうえで、何が問題なのか、その要因は何か、それを解決するにはどんな方法があるかなどについて考察する。履修者は、各自が関心のあるテーマを選び、順番に発表を行い、その後全員でディスカッションして、理解を深める。また、履修者は発表した内容を元にレポートを作成する。その他、学問的なテーマでグループディスカッションを行ったり、関心のあるニュースを履修者が紹介したりする。</p> <p><アクティブラーニング> この科目では、発表の際には履修者による相互評価も行う。たとえば、ある人が作成した資料について他の履修者に改善提案をしてもらったり、発表を聞いた人たちにその発表の出来栄を採点してもらったりするので、自分が資料作成や発表を担当しない回も含めて、常に主体的な姿勢で学修に取り組むことが必要となる。また、グループ・ディスカッションやロールプレイなども行う予定であり、履修者は積極的な発言が求められる。</p>					
予習内容	<p>必要に応じて毎回指示する。全体としては、配布資料を事前に読んでおくこと、その際分からない用語等があれば事前に調べておくことが必要となる。その他、発表のための準備をするなど、毎回90分程度の予習時間が目安となります。</p>					
復習内容	<p>その日学んだ内容の理解や復習など、毎回90分程度の復習時間が目安となります。</p>					
その他	<p>特になし</p> <p>※Gか:【Ⅰは選択必修(A)・Ⅱは選択必修(B)】</p>					